

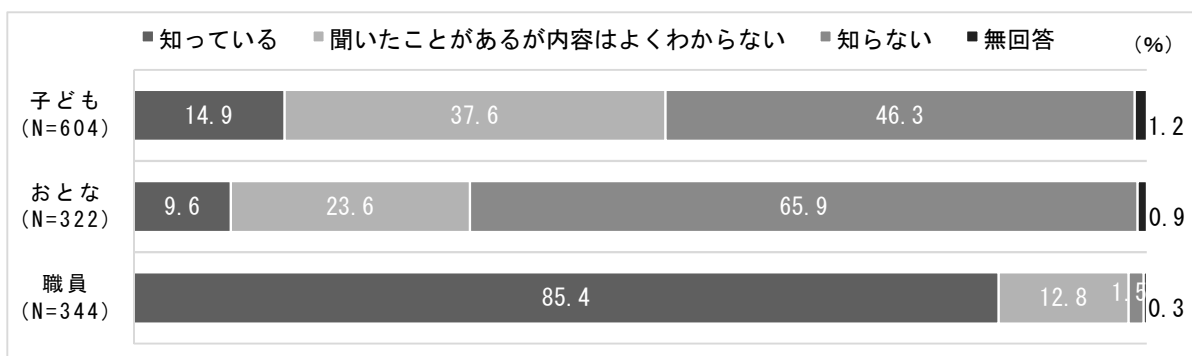
II アンケート調査の結果

1 子どもの権利条例について

(1) 条例の認知度

子どもの権利条例を「知っている」と回答する割合は、子どもが14.9%、おとなが9.6%、職員が85.4%、「聞いたことがあるが内容はよくわからない」と回答する割合は、子どもが37.6%、おとなが23.6%、職員が12.8%でした。子どもは46.3%、おとなは65.9%、職員は1.5%が「知らない」と回答しています。

図1 Q1 川崎市子どもの権利条例を知っていますか。【全体】

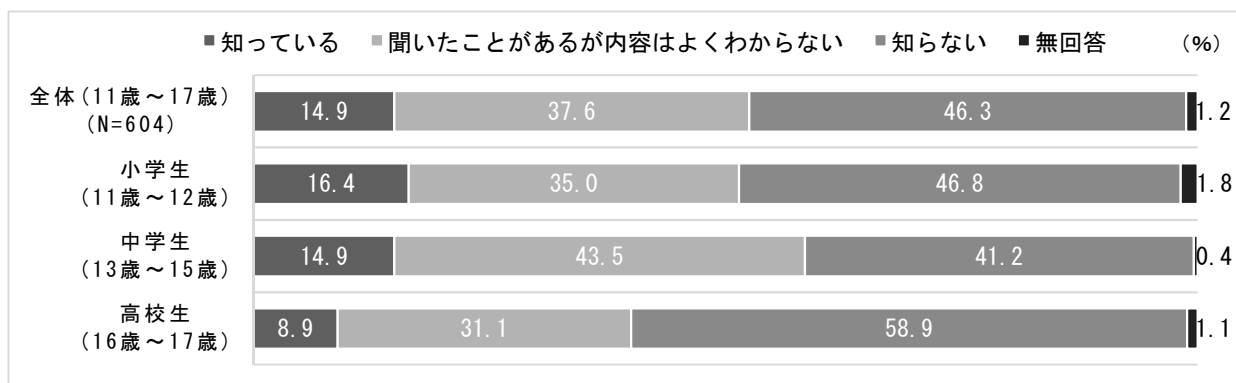


ア 子どもの認知度

【子ども：年齢別】

子どもを年齢別に見ると、「知っている」と回答する割合は小学生世代で16.4%、中学生世代で14.9%、高校生世代で8.9%と、年齢が上がるほど減少しています。「聞いたことがあるが内容はよくわからない」では、小学生世代が35.0%、中学生世代が43.5%、高校生世代が31.1%で、「知っている」、「聞いたことがあるが内容はよくわからない」を合わせると、中学生世代が最も高くなっています。

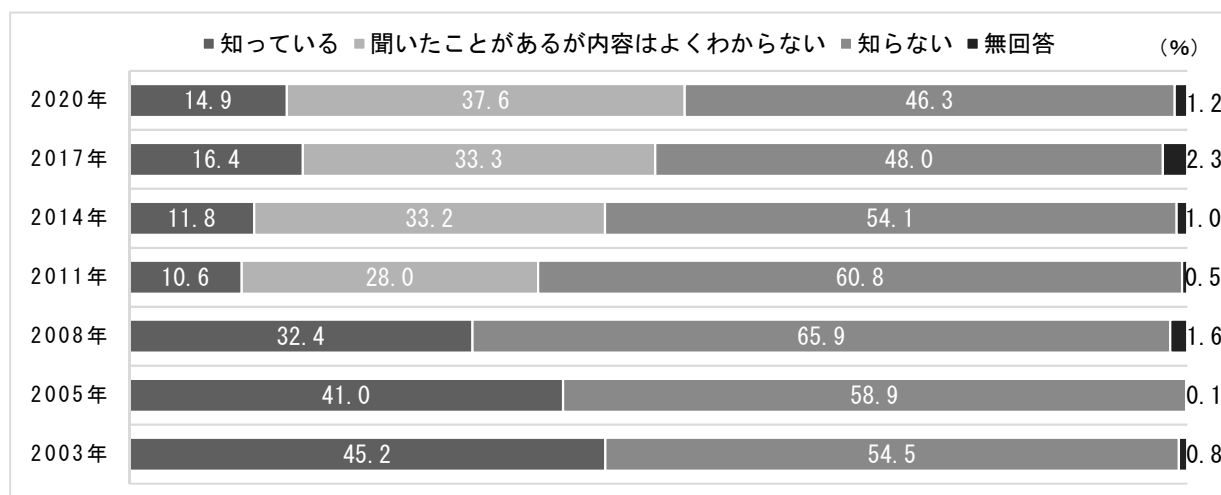
図2 Q1 川崎市子どもの権利条例を知っていますか。【子ども：年齢別】



【子ども：経年比較】

前回の調査と比較すると、条例を「知っている」人が16.4%から14.9%と減少しましたが、「聞いたことがあるが内容はよくわからない」人が33.3%から37.6%と増加しました。「知らない」という回答の割合は過去最低でした。

図3 Q1 川崎市子どもの権利条例を知っていますか。【子ども：経年比較】



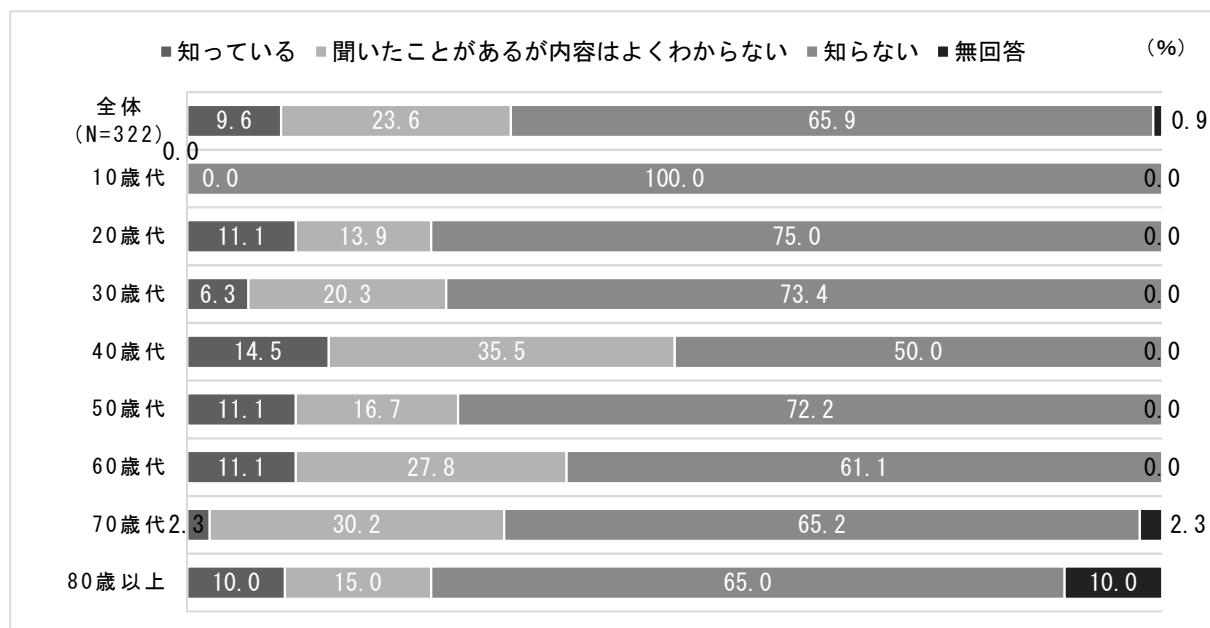
(注) 2003～2008年の調査では「知っている」「知らない」の2択

イ おとなの認知度

【おとな：年代別】

「知っている」、「聞いたことがあるが内容はわからない」とする回答が最も多い年代は、40歳代の50.0%で、次いで60歳代の38.9%、70歳代の32.5%でした。

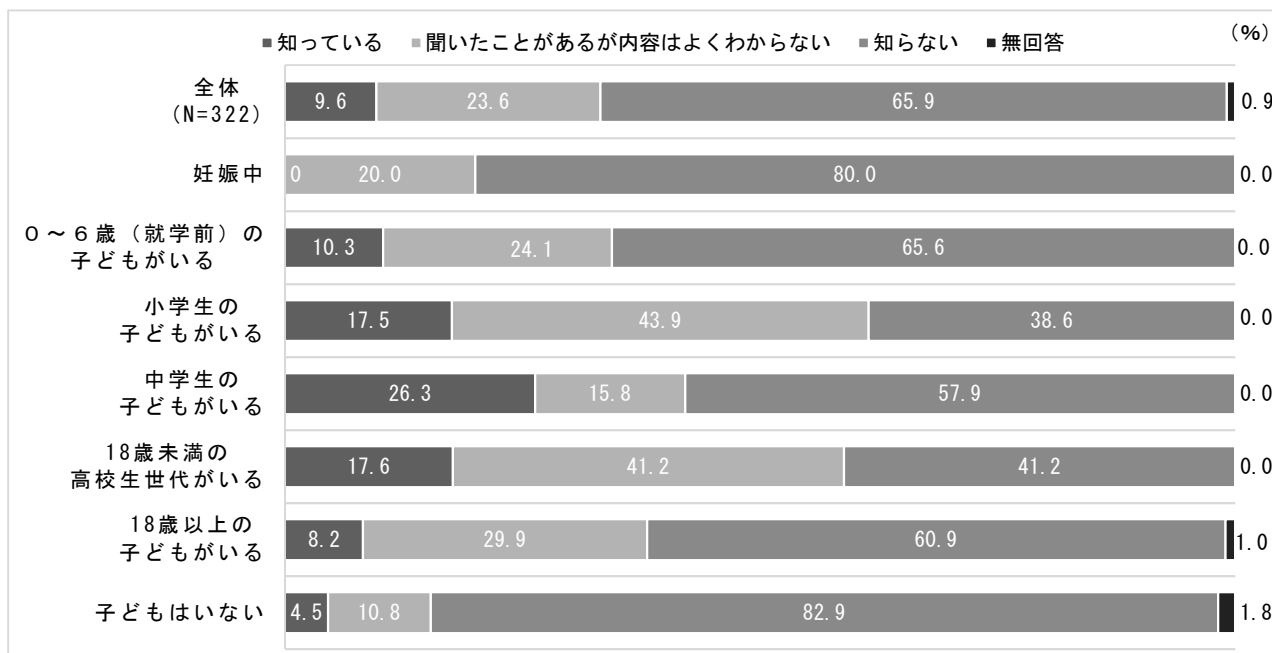
図4 Q1 川崎市子どもの権利条例を知っていますか。【おとな：年代別】



【おとな：子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、条例を「知っている」、「聞いたことがあるが内容はわからない」と回答する割合が最も高かったのは「小学生の子どもがいる」おとなで61.4%、次いで「18歳未満の高校生世代がいる」おとなが58.8%でした。少し差が開いて「中学生の子どもがいる」おとなが42.1%でした。これに対し、「子どもはいない」おとなは15.3%と最も低くなっています。

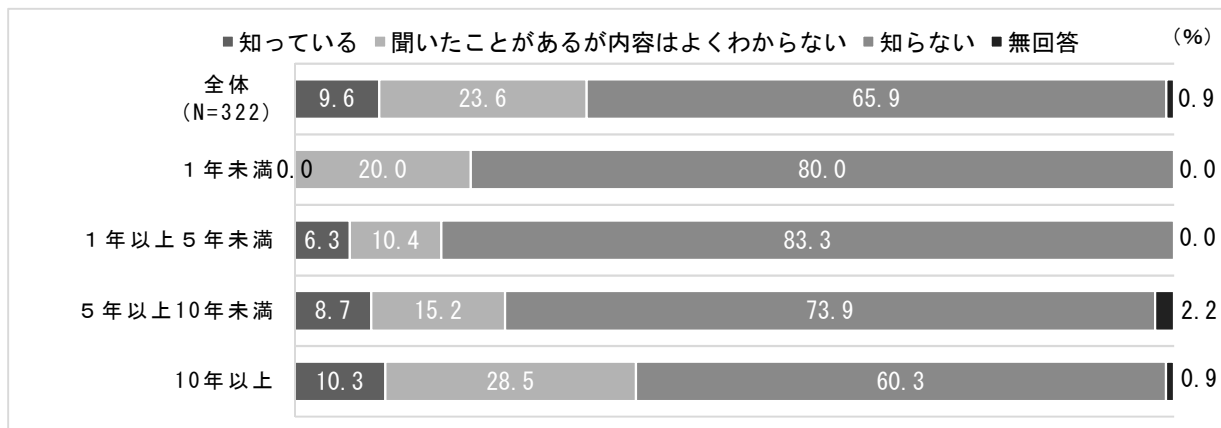
図5 Q1 川崎市子どもの権利条例を知っていますか。【おとな：子どもの有無別】



【おとな：居住期間別】

居住期間別で見ると、条例を「知っている」、「聞いたことがあるが内容はわからない」と回答する割合が最も高かったのは「10年以上住んでいる」おとなで38.8%、次いで「5年以上10年未満」おとなの23.9%でした。

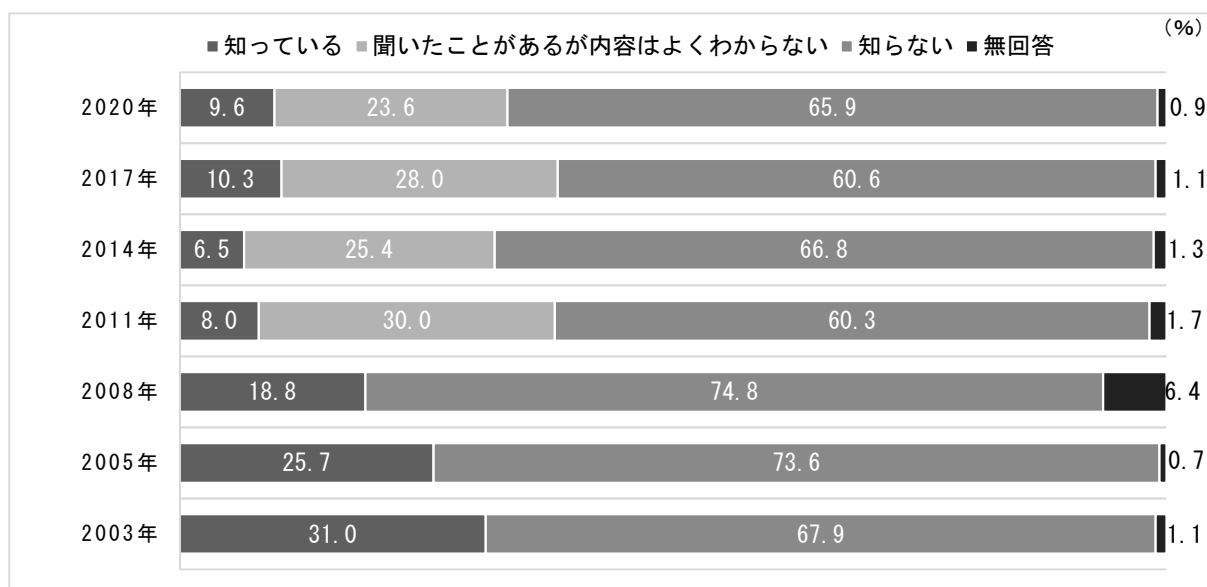
図6 Q1 川崎市子どもの権利条例を知っていますか。【おとな：居住期間別】



【おとな：経年比較】

前回の調査と比較すると、条例を「知っている人」が10.3%から9.6%、「聞いたことがあるが内容はよくわからない」人が28.0%から23.6%と、いずれも減少しました。

図7 Q1 川崎市子どもの権利条例を知っていますか。【おとな：経年比較】



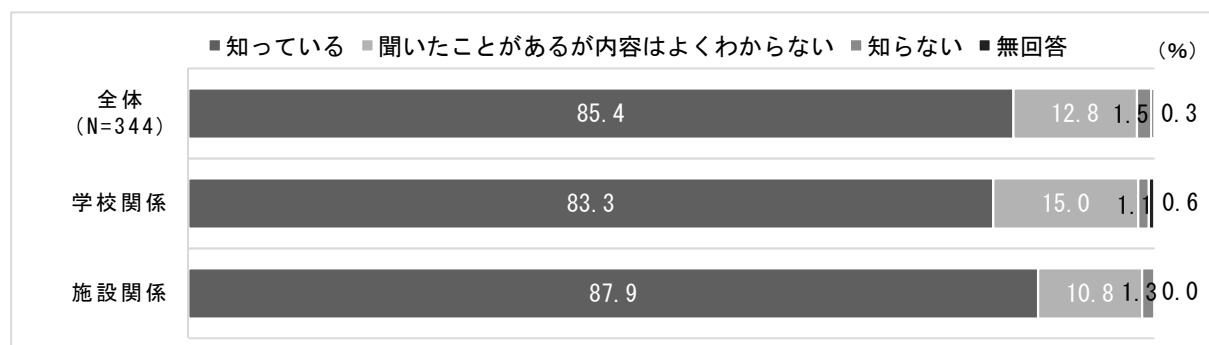
(注) 2003～2008年の調査では「知っている」「知らない」の2択

ウ 職員の認知度

【職員：学校・施設別】

学校関係職員の83.3%、施設関係職員の87.9%が条例を「知っている」と回答しました。

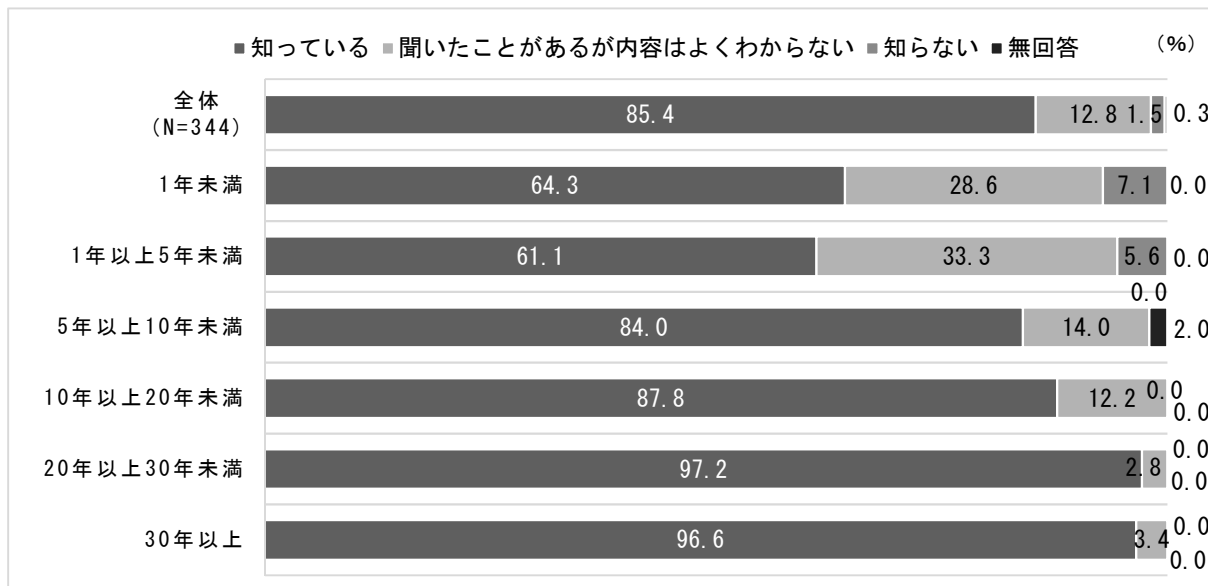
図8 Q1 川崎市子どもの権利条例を知っていますか。【職員：学校・施設別】



【職員：勤続年数別】

おおよそ勤続年数が長い職員ほど「知っている」と回答する割合が増加する傾向があり、20年以上の勤続年数の職員の9割以上が「知っている」と回答しました。

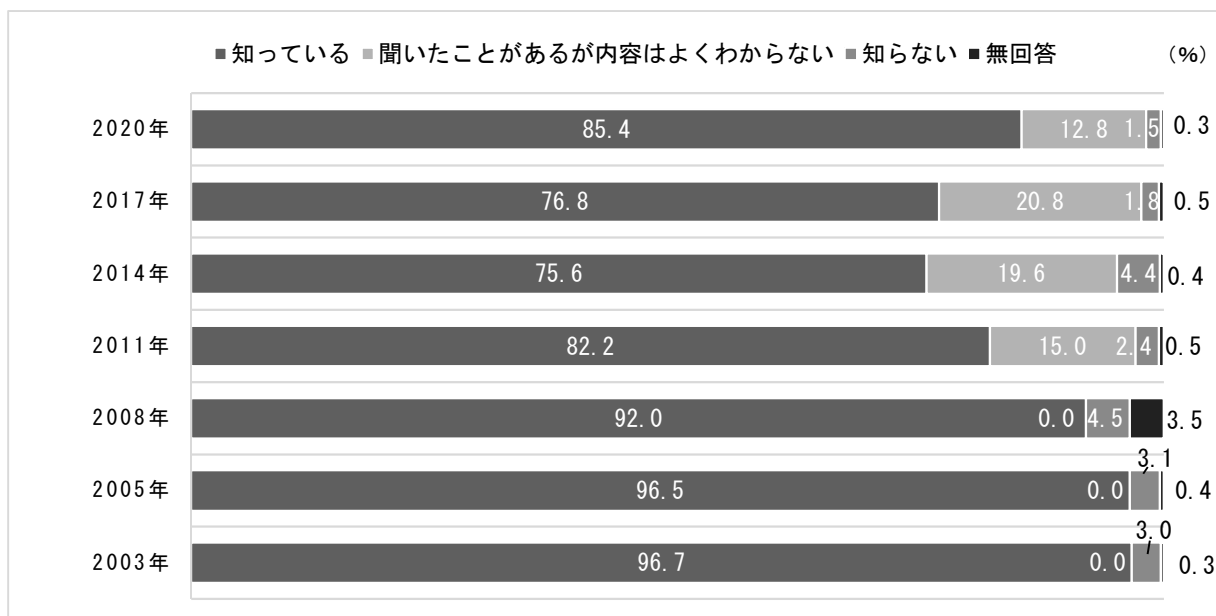
図9 Q1 川崎市子どもの権利条例を知っていますか。【職員：勤続年数別】



【職員：経年比較】

条例を「知っている」職員が前回調査の76.8%から85.4%へと増加しています。「知らない」と回答する職員の割合は過去最低でした。

図10 Q1 川崎市子どもの権利条例を知っていますか。【職員：経年比較】



(注) 2003～2008年の調査では「知っている」「知らない」の2択

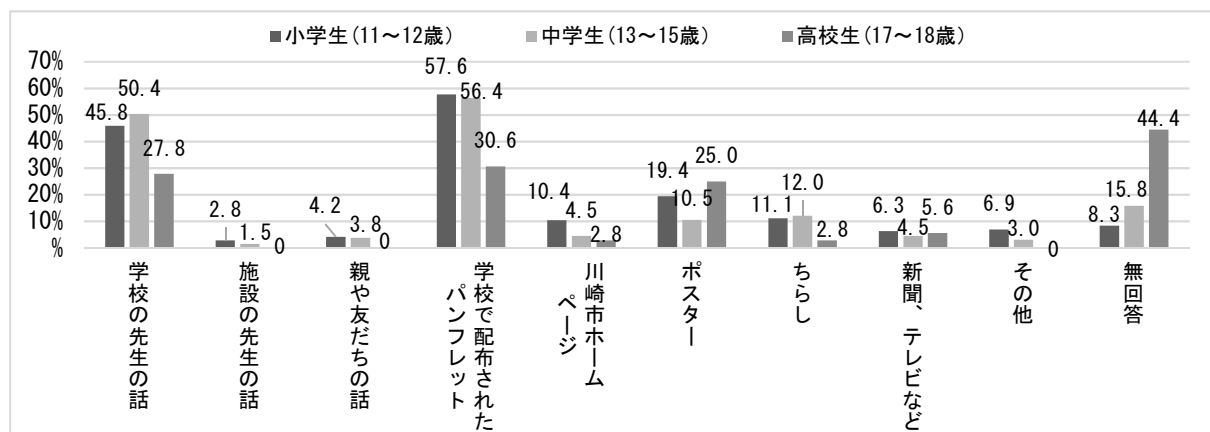
(2) 条例の認知方法（条例を「知っている」「聞いたことがあるが内容はよくわからない」と回答した人）

ア 子ども

【子ども：年齢別】

年代別に見ると、小学生・中学生・高校生世代ともに、「学校で配布されたパンフレット」「学校の先生の話」と回答する割合が高くなっています。

図 11 Q2 川崎市子どもの権利条例をふだんどのような方法で見たり聞いたりしますか。(複数回答可)【子ども：年齢別】

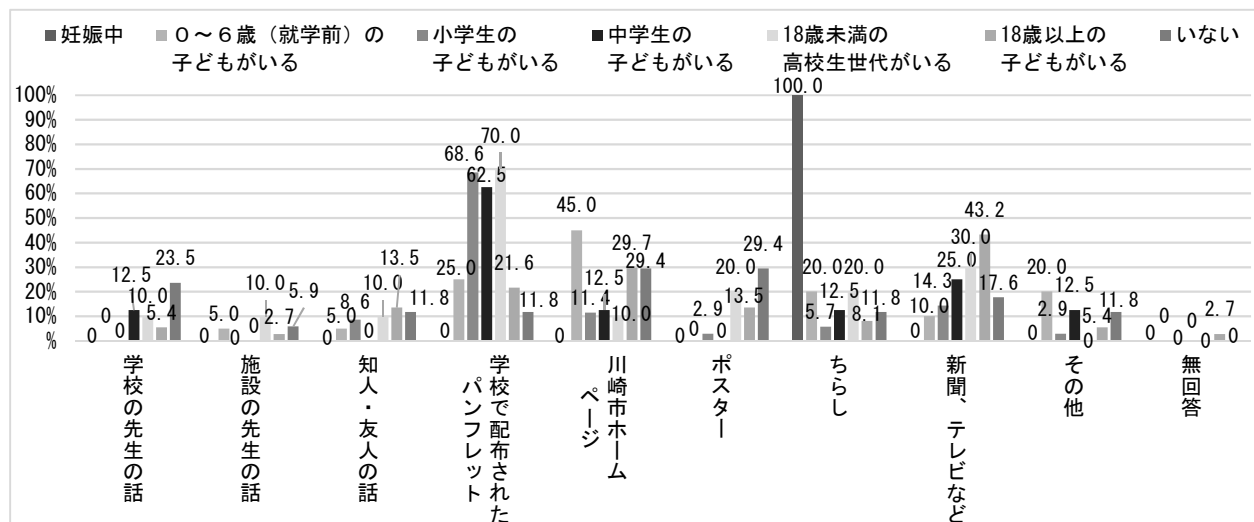


イ おとな

【おとな：子どもの有無別】

子どもの有無別で見ると、小・中・高校生のおとなは、「学校で配布されたパンフレット」の回答の割合が最も高くなりました。18歳以上の子どもがいるおとなや子どもはいるおとなは、「川崎市ホームページ」や「新聞、テレビなど」の回答の割合が高くなりました。

図 12 Q2 川崎市子どもの権利条例をふだんどのような方法で見たり聞いたりしますか。(複数回答可)【おとな：子どもの有無別】

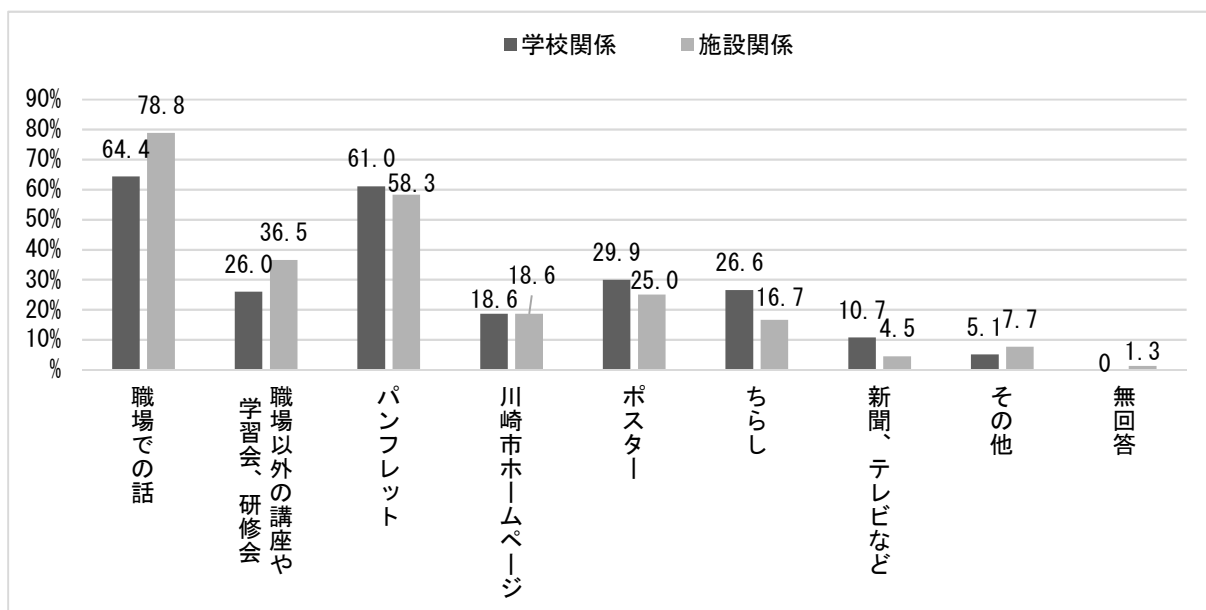


ウ 職員

【職員：学校・施設別】

学校関係の職員・施設関係の職員ともに、「職場での話」、「パンフレット」という回答の割合が高くなりました。施設関係の職員は、「職場以外の講座や学習会、研修会」も 36.5%と比較的高い回答割合でした。

図 13 Q2 川崎市子どもの権利条例をふだんどのような方法で見たり聞いたりしますか。(複数回答可)【職員：学校・施設別】



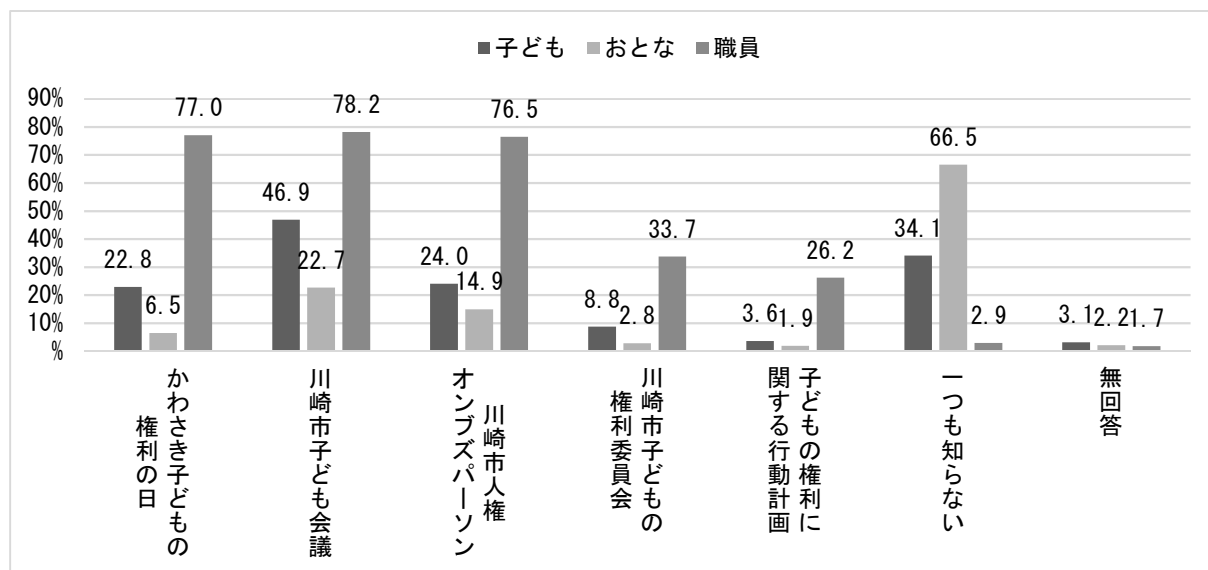
(3) 条例に基づく制度の認知度

子どもの回答で知っている割合が最も高かった制度は、「川崎市子ども会議」の 46.9%で、次いで「川崎市人権オンブズパーソン」の 24.0%でした。

おとなは、全体的に認知度が低く、66.5%のおとなが「一つも知らない」と回答しています。知っているものの中では、「川崎市子ども会議」(22.7%)、「川崎市人権オンブズパーソン」(14.9%)が比較的高くなりました。

職員では、「川崎市子ども会議」で 78.2%と最も高く、次いで「かわさき子どもの権利の日」が 77.0%、「川崎市人権オンブズパーソン」で 76.5%という結果でした。(図は P. 13 図 14 を参照)

図 14 Q3 次の川崎市の取組で知っているものは何ですか。(複数回答可)【全体】



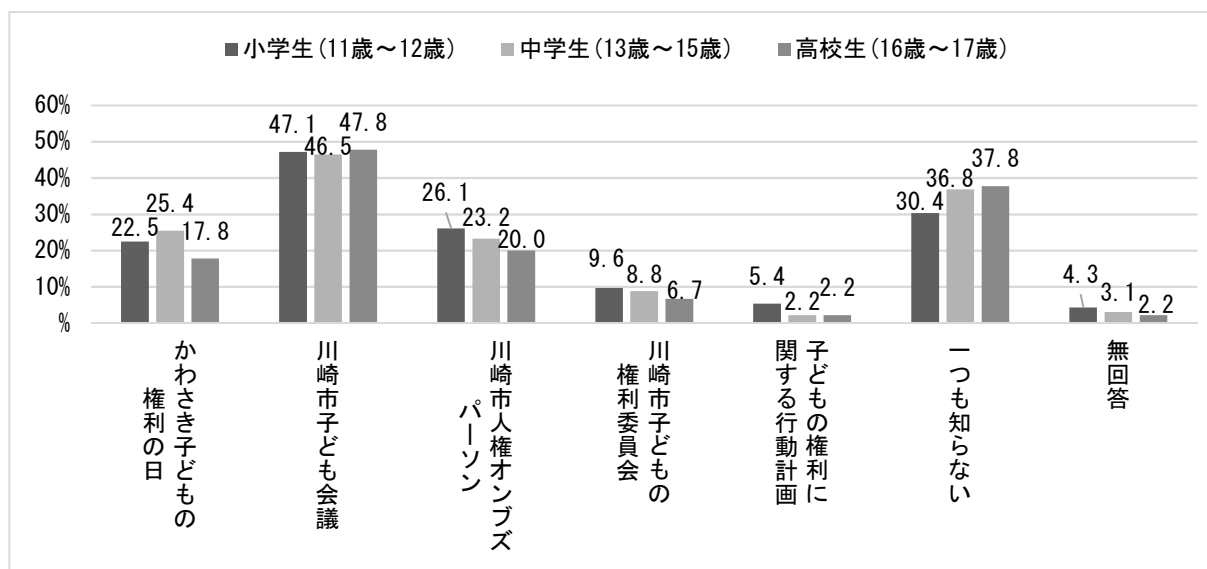
ア 子どもの認知度

【子ども：年齢別】

年齢別にみると、子ども全体として最も回答の割合が高かった「川崎市子ども会議」は、小学生世代が47.1%、中学生世代で46.5%、高校生世代で47.8%でした。「一つも知らない」という回答は年齢が上がるにつれて増加する傾向にあり、高校生世代で37.8%と約4割が知らないという結果になりました。

また、子ども全体で2番目に知っている割合が高かった「川崎市人権オンブズパーソン」は、小学生世代より中学生世代、高校生世代と、年齢が上がるにつれて認知度が低くなる傾向がありました。

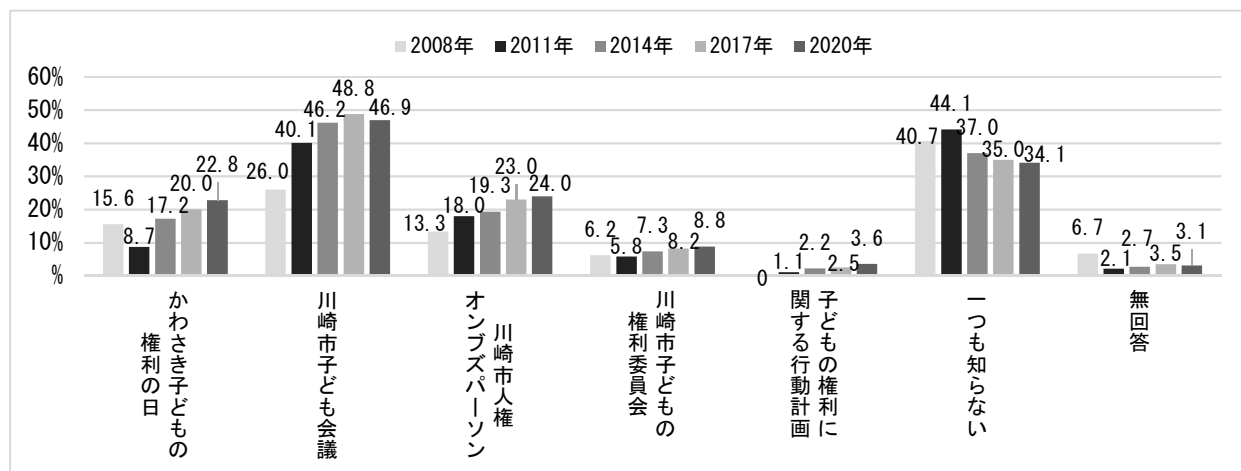
図 15 Q3 次の川崎市の取組で知っているものは何ですか。(複数回答可)【子ども：年齢別】



【子ども：経年比較】

「かわさき子どもの権利の日」、「川崎市人権オンブズパーソン」、「川崎市子どもの権利委員会」「子どもの権利に関する行動計画」の項目においては前回調査より認知度が上昇しましたが、「川崎市子ども会議」については1.9ポイント減少しました。「一つも知らない」とする回答は、今回の調査が最も低い割合となりました。

図 16 Q 3 次の川崎市の取組で知っているものは何ですか。(複数回答可)【子ども：経年比較】

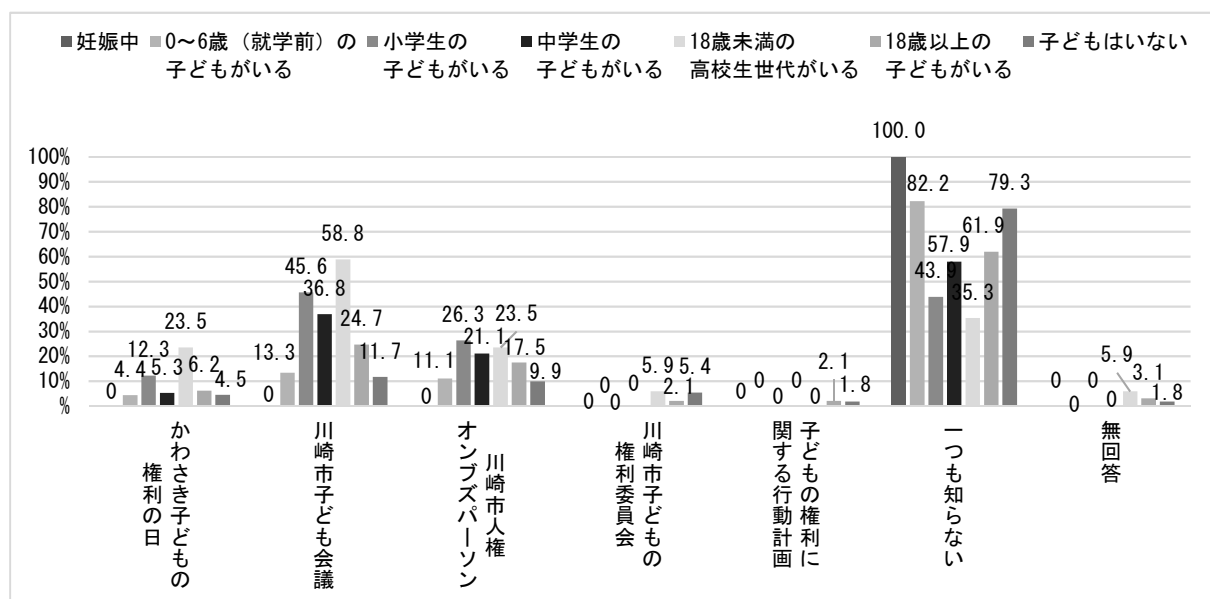


イ おとなの認知度

【おとな：子どもの有無別】

子どもがいるおとなでは、「川崎市子ども会議」の認知度が最も高くなりました。「一つも知らない」と回答する割合は、「妊娠中」のおとな、「0歳～6歳（就学前）の子どもがいる」おとな、「子どもはいない」おとなが高くなっています。

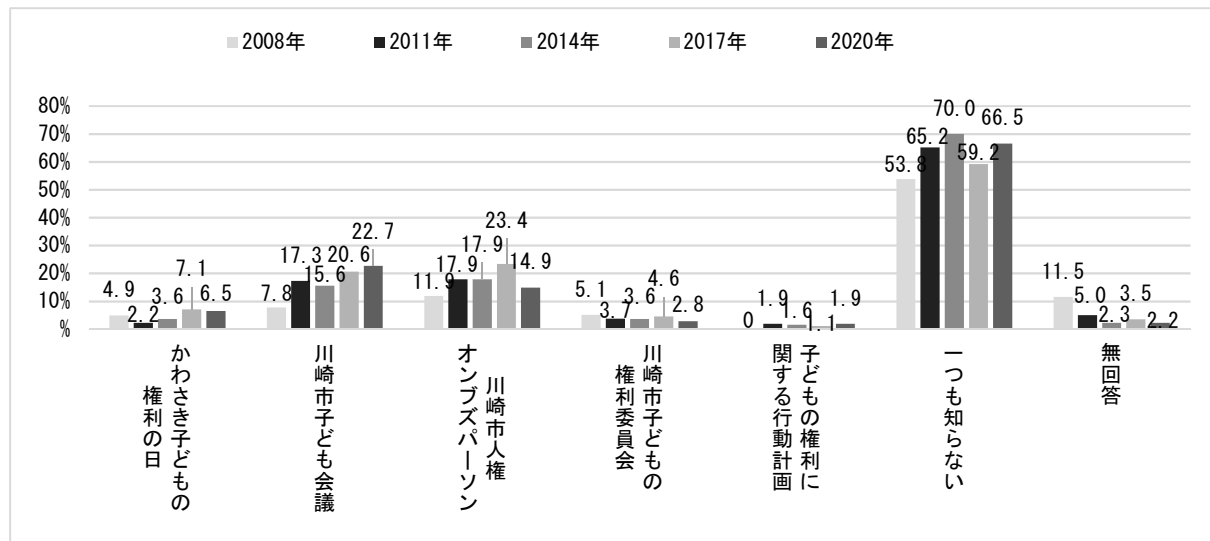
図 17 Q 3 次の川崎市の取組で知っているものは何ですか。(複数回答可)【おとな：子どもの有無別】



【おとな：経年比較】

今回の調査では、前回調査と比べて「川崎市人権オンブズパーソン」の認知度が8.5ポイント減少しています。

図 18 Q3 次の川崎市の取組で知っているものは何ですか。(複数回答可)【おとな：経年比較】

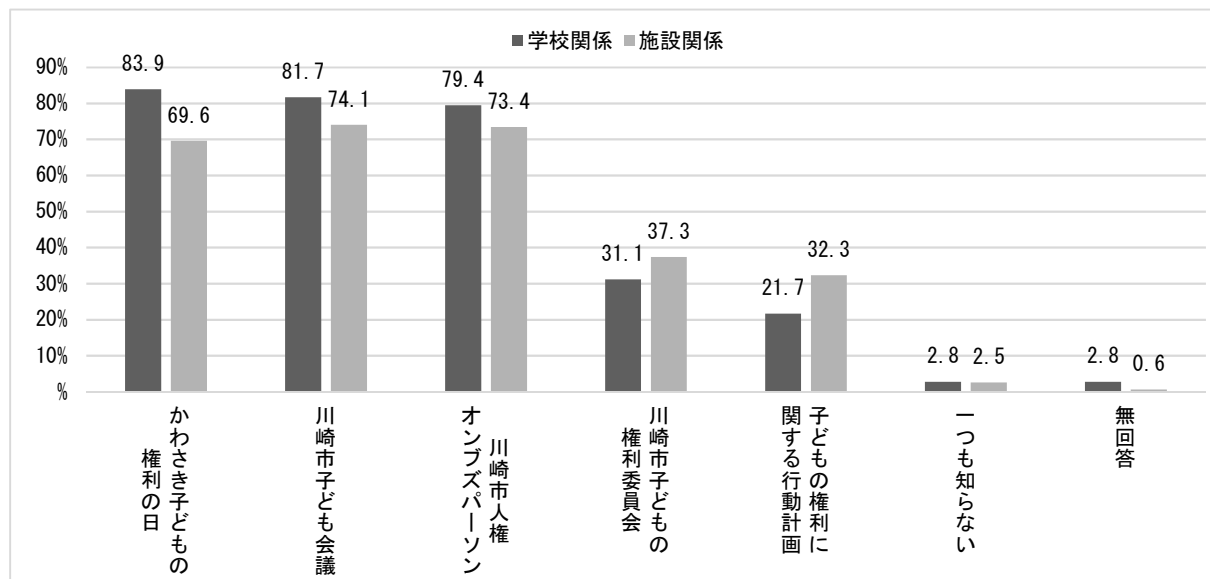


ウ 職員の認知度

【職員：学校・施設別】

学校関係の職員・施設関係の職員ともに、「かわさき子どもの権利の日」、「川崎市子ども会議」、「川崎市人権オンブズパーソン」を知っていると回答する割合が高く、いずれも学校関係の職員の方が施設関係の職員よりも回答の割合が高くなっています。

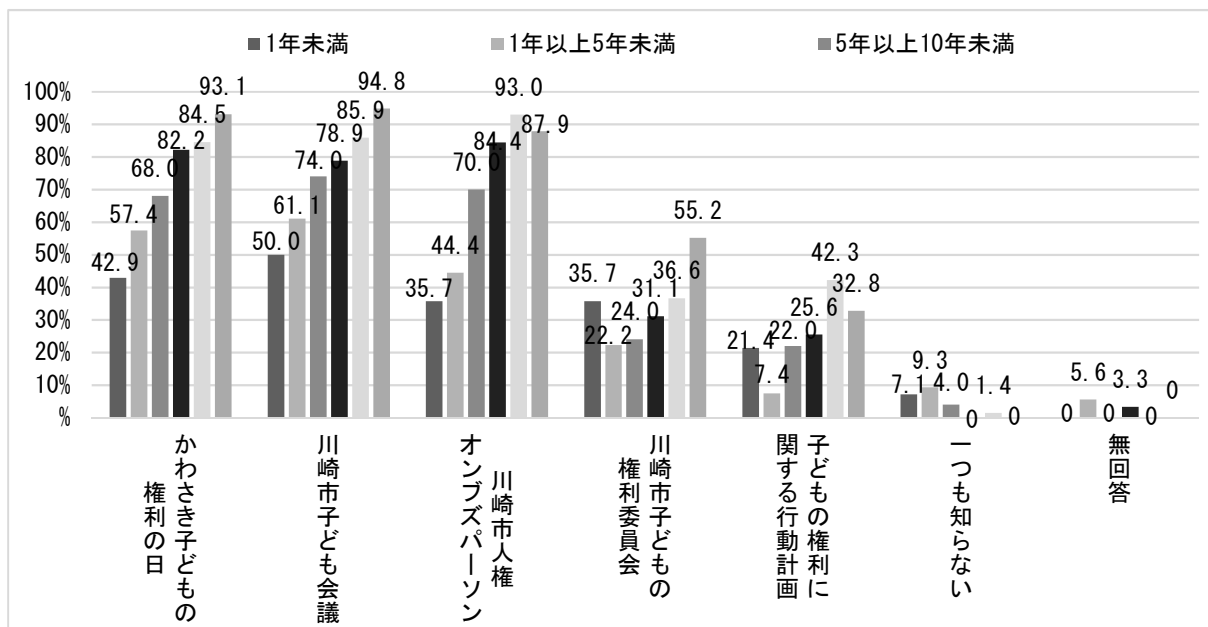
図 19 Q3 川崎市の取組で知っているものは何ですか。(複数回答可)【職員：学校・施設別】



【職員：勤続年数別】

おおよそ勤続年数が高いほどそれぞれの制度の認知度が高い傾向にありました。

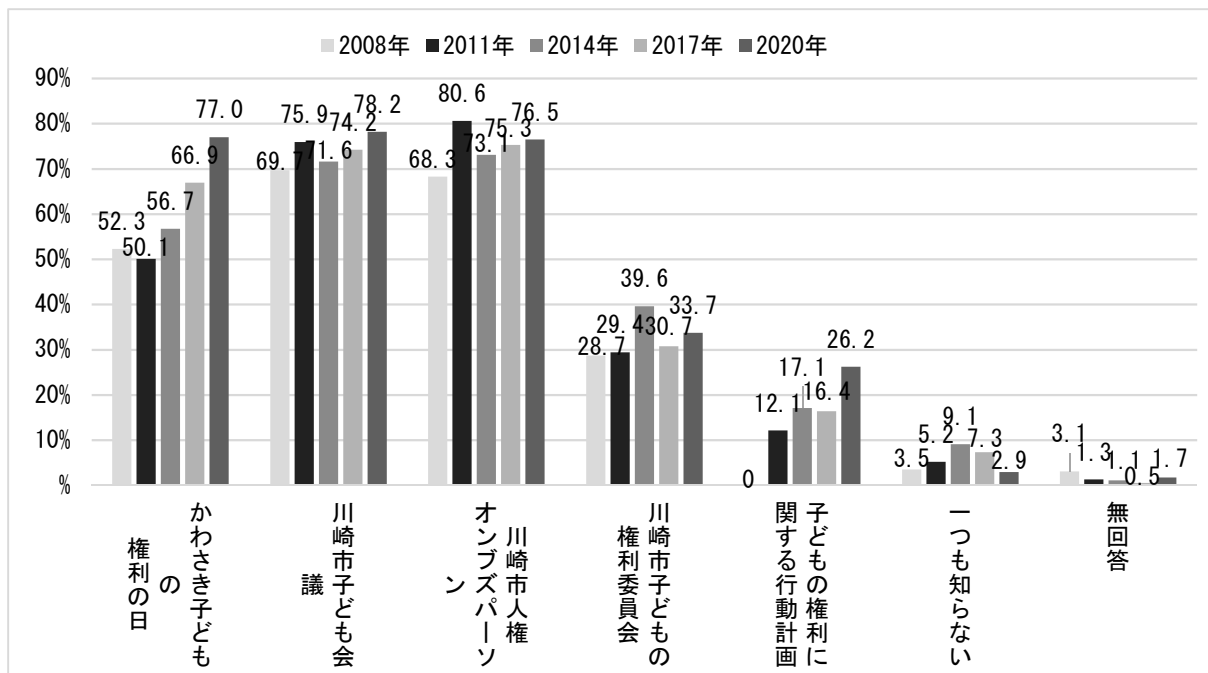
図 20 Q3 川崎市の取組で知っているものは何ですか。(複数回答可)【職員：勤続年数別】



【職員：経年比較】

今回の調査では、「かわさき子どもの権利の日」、「川崎市子ども会議」、「川崎市人権オンブズパーソン」の認知度が前回調査より上昇し、「かわさき子どもの権利の日」は過去最高となりました。

図 21 Q3 川崎市の取組で知っているものは何ですか。(複数回答可)【職員：経年比較】

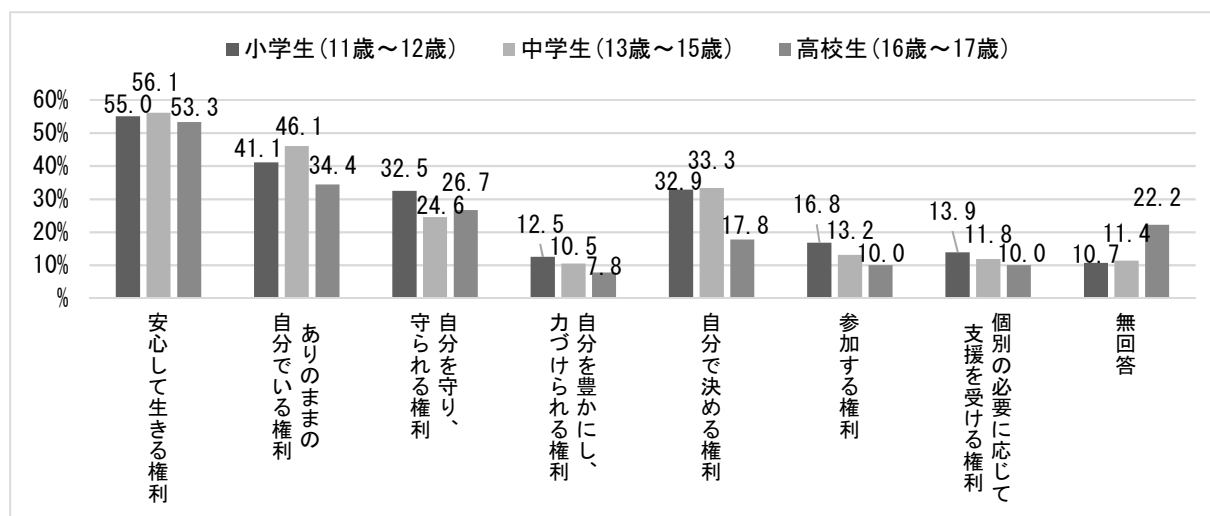


(4) 子どもの権利の中で、最も大切だと思うもの

【子ども：年齢別】

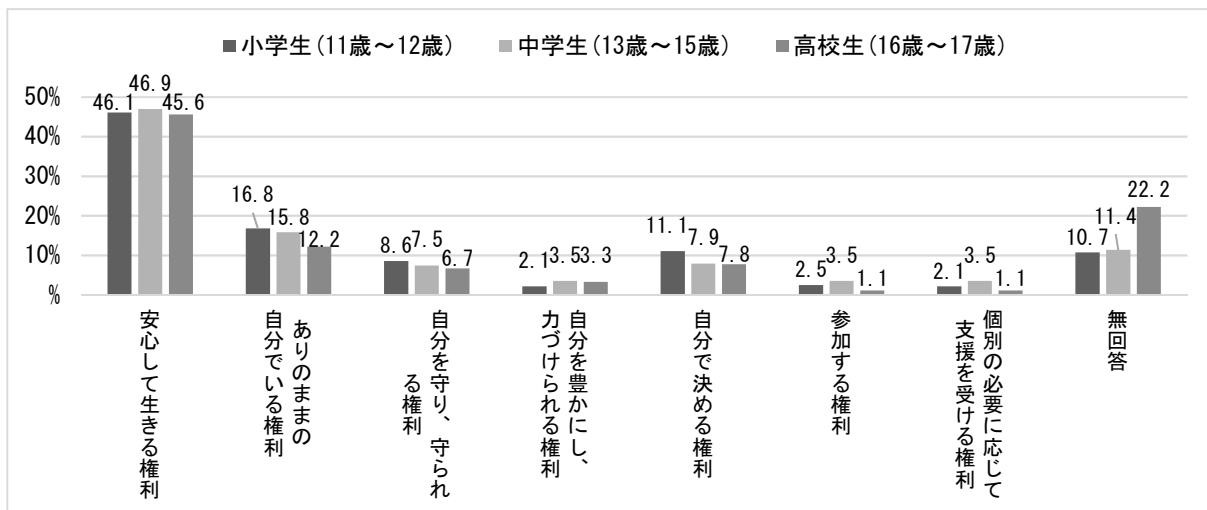
子どもに対し、7つの子どもの権利の中で、自分にとって最も大切だと思うものを大切だと思う順に3つ選んでもらったところ、すべての年代において最も回答の割合が高かったのは「安心して生きる権利」で、次いで高かったのが「ありのままの自分でのいる権利」でした。

図 22 Q4-1 7つの子どもの権利のうち、自分にとって大切だと思うものはありますか。あてはまるものを最大3つまで選び、大切だと思う順にその番号と理由を書いてください。(全体)【子ども：年齢別】



大切だと思う権利のうち、一番目に選ばれた権利で最も多かったのは「安心して生きる権利」で、すべての年代において約半数を占めました。

図 23 Q4-1 7つの子どもの権利のうち、自分にとって大切だと思うものはありますか。あてはまるものを最大3つまで選び、大切だと思う順にその番号と理由を書いてください。(一番目)【子ども：年齢別】



【選んだ理由（抜粋）】（表記は原文のまま、以下同じ）

「安心して生きる権利」

- ・自分にとっても、その他大勢の子供にとっても親からの愛情を注がれることは、一番の幸せで何より大切だと思うから。（11歳）
- ・安心して生きるという当然の事ができていない人がいていいはずがないから。（11歳）
- ・コロナ禍で、もし自分がコロナにかかったら差別されるかもしれないので今この権利が必要と思った（13歳）
- ・安心できる場所がないと、生きづらいから。（14歳）
- ・安全・安心な生活が送れることで自由に過ごせると思うから。（16歳）

「ありのままの自分での権利」

- ・ありのままであれば、自分に合った友達も見つけられるし、自分に合わない友達といることがないから息苦しくない。また、人の多様性が認められ、大切にされるのは大事なことから。（11歳）
- ・他の人との違いや個性を大切にされると、意見が言いやすくなると思うから。（12歳）
- ・自分とは違う個性や性格を大切にし、プライバシーを守る事が大切だと思います。また、一人の時間を確保し、体を休ませる事も大切だと思います。（15歳）
- ・自分の個性、特徴をありのままに表現する事は、生活する上でとても大切だと思うから。（17歳）

「自分を守り、守られる権利」

- ・いじめ・ぎゃくたい・たいばつなどから逃れたり相談できたりすると、いじめはへるし、自分だけでなく、みんなにとっても大切だと思う。（11歳）
- ・いじめや虐待は人の心をきずつけることだから。（13歳）
- ・周りの大人の意見に流され、自分の思っていることが理解されないことはあってはいけないから。（15歳）
- ・子どもは力がないのでしっかりと守られるべき。（17歳）
- ・いじめはどんなことがあっても起きてはいけないと思うが、もし何かがあった時には相談できる環境があることが大切であると思うから。（17歳）

「自分を豊かにし、力づけられる権利」

- ・自分が1つ1つのことを学ぶことで自然と楽しさやよりよくしようと思えることは自分を成長させる大事なことと思ったから。（13歳）
- ・皆で励まし合ったりすることは大切だから、1人で黙々と行うより誰かに応援された方が楽しく出来る人が多いから。（13歳）
- ・励まされると頑張ろうと思えるから。（14歳）
- ・成長や自信につながることは大切だと思うから。（16歳）

「自分で決める権利」

- ・自分で決められるのは良いと思うから。必要な情報を得られることは大切だと思うから。(11歳)
- ・必要な情報がないと、生きる時に大変になってしまうから。(14歳)
- ・親になんでもかんでも決められると、自主性のない人になってしまうから(15歳)
- ・これから人生についての色々な選択をしていく上で自分の人生を自分で決めて、適切な助言が得られることが大事だと思ったから。(16歳)

「参加する権利」

- ・将来の世界を、つないでいくためには、今からでも必要だと思う(12歳)
- ・自分を表すことはこれから、今も大切だと思うから。(13歳)
- ・社会に出たらいかに自分の考えを発信出来るかが重要であり、私にはまだそれが出来ていない為。(15歳)

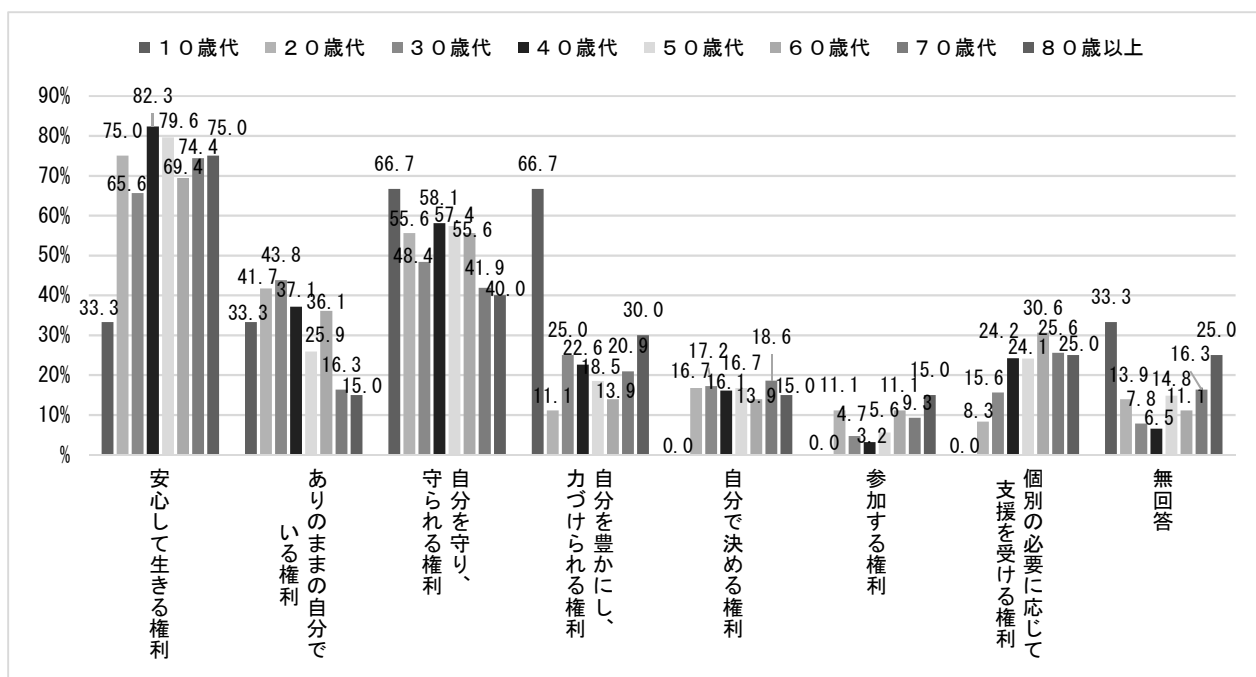
「個別の必要に応じて支援を受ける権利」

- ・国がちがっても、しょうがいがあっても、みんな「人」だからびょうどうに生活できる方がいいと思う。(11歳)
- ・差別をしてはならないし、いろいろな人が交流するのはいいから。(12歳)
- ・私の友達の中にも障がいをもった子がいるので気軽に話しかけていきたい。(15歳)

【おとな：年代別】

おとなに対し、7つの子どもの権利の中で、子どもにとって最も大切だと思うものを大切だと思う順に3つ選んでもらったところ、10歳代を除く年代において最も回答の割合が高かったのは「安心して生きる権利」でした。10歳代は、「自分を守り、守られる権利」と「自分を豊かにし、力づけられる権利」が最も高くなりました。2番目に多く選ばれた権利については、10歳代を除く全年代が「自分を守り、守られる権利」を選びました。10歳代は、「安心して生きる権利」と「ありのままの自分である権利」を2番目に多く選びました。

図 24 Q4-1 7つの子どもの権利のうち、子どもにとって最も大切だと思うものはどれですか。あてはまるものを最大3つまで選び、大切だと思う順にその番号と理由を書いてください。(全体)【おとな：年齢別】



【選んだ理由（抜粋）】

「安心して生きる権利」

- ・安心して生きることができなければ、何もできないから。(20歳代)
- ・自己肯定感が育つ大前提で、これが土台となってはじめて成長が可能となるから。(30歳代)
- ・自分が受け入れられている、と安心することで安定した健康や心が得られるから。(50歳代)
- ・人格形成において最も大切。愛されて育った子は人にも優しく思いやり深い子に育つ。(60歳代)
- ・基本的な権利だと思う。(70歳代)

「ありのままの自分である権利」

- ・自己肯定感を持つために、子どもの内に自分を認めてもらうことは特に重要だと感じるため。(20歳代)

- ・皆が同じではないので、個性を大切に認められるべきだと思うから。(30 歳代)
- ・人間の基本的な権利だと思うからです。(40 歳代)

「自分を守り、守られる権利」

- ・子どもが困っていたら周りが手を差し延べてあげるべき。(10 歳代)
- ・自分が守られる存在だということを子どもがしっかりと自覚することが何より大事だと思う。自分が大切にされなければ他人のことを大切にすることができないから。(30 歳代)
- ・いじめや虐待は家族の他に地域一体で子どもを守っていくべきだと感じたため。(30 歳代)
- ・いじめ、虐待、体罰などの実態は、うけた本人は一生心に傷をおう。大人になってもたちなおれない事が多い。未然に防げたらと思う。(40 歳代)

「自分を豊かにし、力づけられる権利」

- ・子どもは個性を大切にすべきであると考えている為。(10 歳代)
- ・将来自分のやりたい活動や仕事に従事するためには学校やその他の活動を通じて学び続けることが何よりも大事だと思う。周囲の環境によってそれが阻害されると、子どもは自身が活躍し、それを通じて自己実現を達成する機会を失い、満ち足りない将来を過ごすことになるため。(30 歳代)
- ・まずは、1 人 1 人自分自身を確立した上で、自信を持って他の人に親切にできる。(30 歳代)

「自分で決める権利」

- ・周囲の環境に影響されることなく何かを決められるのは自由であるということだからそれが 4 番（自分を豊かにし、力づけられる権利）にも影響してくるはずですよ。(30 歳代)
- ・自分の意思を持つ、その意思を現実に向かわせる意欲や環境は川崎を離れても一生必要なことだと思うので。(50 歳代)
- ・子ども扱いせず一人の人間としての意志を尊重するべき。(60 歳代)

「参加する権利」

- ・社会の一員であることを認識することが将来につながるから。(20 歳代)
- ・地域の活動に積極的に参加し、友達をたくさん作って欲しい。(40 歳代)
- ・子ども達の意見を尊重する事が必要。(50 歳代)

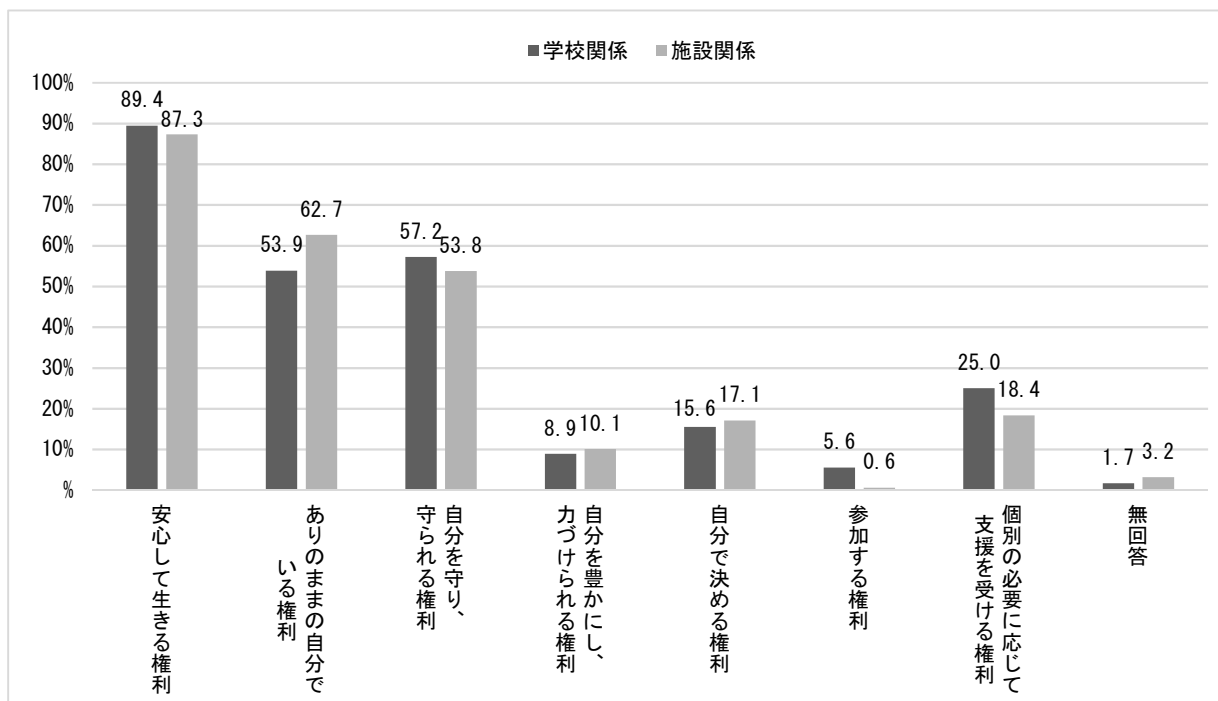
「個別の必要に応じて支援を受ける権利」

- ・基本的人権に関わるものだと思います。どんなケースにおいても、子どもの権利が守られるように国をはじめ自治体が尽力すべきと考えます。(30 歳代)
- ・障がいがあって生きていくことで支援があると助かるしありがたいので。(50 歳代)
- ・個別に支援を受けることはとても大切。(80 歳以上)

【職員：年齢別】

職員に対し、7つの子どもの権利の中で、子どもにとって最も大切だと思うものを大切だと思う順に3つ選んでもらったところ、学校関係・施設関係どちらにおいても最も回答の割合が高かったのは「安心して生きる権利」でした。2番目に多く選ばれた権利は、学校関係は「自分を守り、守られる権利」で、施設関係は「ありのままの自分でいる権利」でした。

図 25 Q4-1 7つの子どもの権利のうち、子どもにとって最も大切だと思うものはどれですか。あてはまるものを最大3つまで選び、大切だと思う順にその番号と理由を書いてください。(全体)【職員：施設別】



【選んだ理由（抜粋）】

「安心して生きる権利」

- ・安全、安心して生活することはすべての基本だと思うから。(学校関係)
- ・子どもに限らず、人として安心して生きることが、生活の基盤となり、その上で他の権利につながっていくと思うから。(学校関係)
- ・子どもは社会的に弱い立場、社会全体で子どもの成長を見守り自立を見届けることが社会を豊かにする方法。(学校関係)
- ・子どもの成長には安心な人・場所が必要で、心おだやかに、すこやかに育つよう、大人が見守ることが大切だと感じるため(施設関係)
- ・成長の上で、安全・安心して生活できるということは全てにおいて基盤になるものだと思うため。(施設関係)

「ありのままの自分である権利」

- ・学校は他人との違いや個性が大切にされ、ホッとできる場所であるべきだから。(学校関係)
- ・多様性ますます大切になる世の中だから。(学校関係)
- ・「みんな違ってみんないい」ありのままの自分を出せない状況というのを考えただけでも苦しい。(施設関係)
- ・頑張りすぎてしまったりする子が多いため、ホッと安心できる場所で自分らしくいられることが大切だと思う。(施設関係)

「自分を守り、守られる権利」

- ・いじめ、体罰、虐待が行われている状況では、死に向かってしまうから。(学校関係)
- ・いじめや虐待、体罰から、子ども一人で逃れることはできないので、大人こそが守らなければならない。そして、子どもに一生残る傷を負わせてしまうから。(学校関係)
- ・まずは親や身近な方に相談できる環境を家庭だけでなく周りにも安心して話せる環境を作るべき。(施設関係)

「自分を豊かにし、力づけられる権利」

- ・色々な体験やあそびを通して社会性につなげ成長することが大切。(学校関係)
- ・ほめられる、励まされるということの積み重ねが、生きる力に直結すると感じるため。(施設関係)
- ・力強く生きる力と、自信は人間形成に必要なだから。(施設関係)

「自分で決める権利」

- ・一人の人間として自分で決めることが権利として守られていなければならないと思うから。(学校関係)
- ・将来の力にもなると思う。また、自分で決定して物事を進めていく経験が大切だと思うから。(学校関係)
- ・多くの子もたちが、自分で選ぶことを奪われていると感じるから。(施設関係)

「参加する権利」

- ・社会とつながることで人生の楽しさがあるから。(学校関係)
- ・子どもにも考え、人権があり、それを表現する場がないこと、その子自身が社会に埋まってしまう恐れがあるから。(学校関係)
- ・参加することすら出来ないのであれば、決めることも選ぶことも出来ないのでもまず平等に参加できることが必要。(施設関係)

「個別の必要に応じて支援を受ける権利」

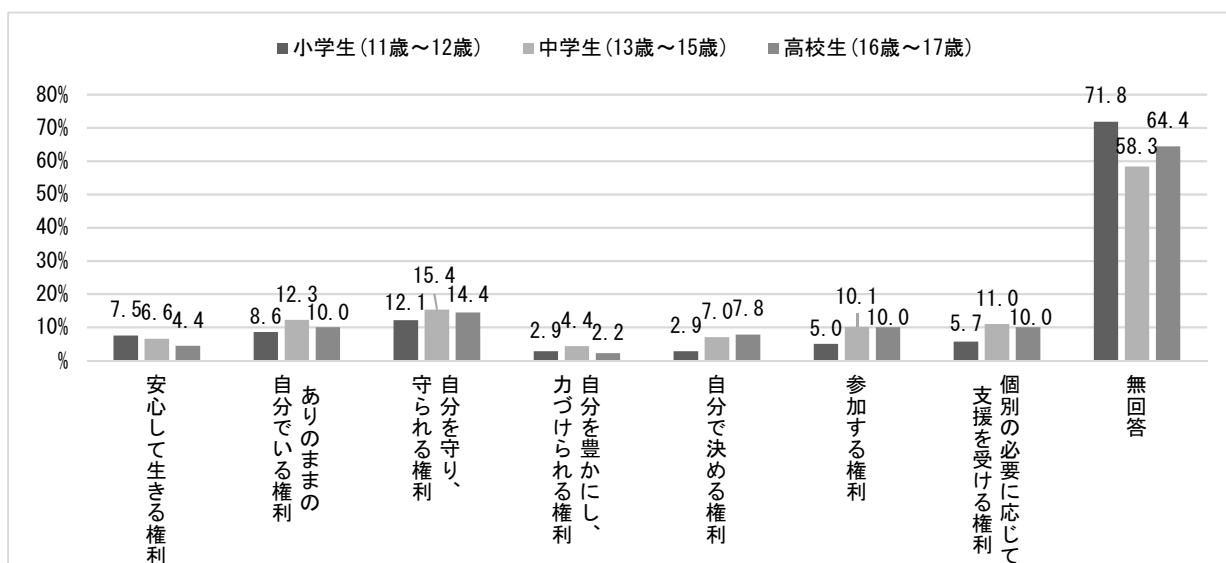
- ・子どもの中に差別されず支援される経験をすることで他者を支えられる人へ成長すると思うから。(学校関係)
- ・障がいのある子どもも大人の対応や支援のありかたでよりよく社会に参加できるため。(学校関係)
- ・国が違ってても障がいがあっても同じ人間。差別される事があってはいけないと思う。(施設関係)

(5) 子どもの権利の中で、守られていないと思うもの

【子ども：年齢別】

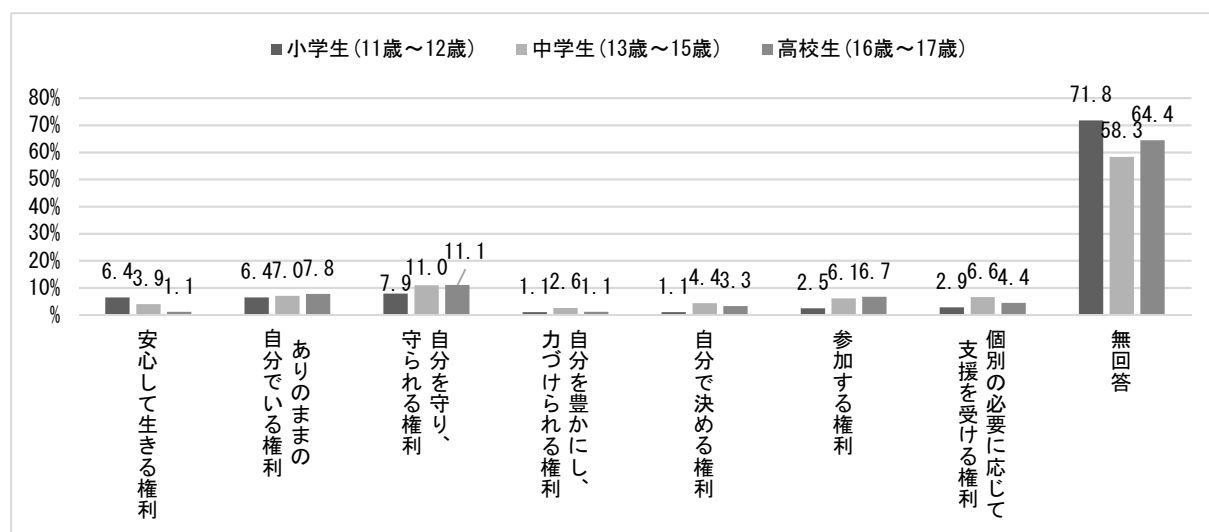
子どもに対し、7つの子どもの権利のうち、守られていないと思うものを守られていないと思う順に3つ選んでもらったところ、すべての年代において最も回答の割合が高かったのは「自分を守り、守られる権利」でした。

図 26 Q4-2 7つの子どもの権利のうち、守られていないと思うものはありますか。あれば最大3つまで選び、守られていないと思う順にその番号と理由を書いてください。(全体)【子ども：年齢別】



守られていないと思う権利のうち、一番目に選ばれた権利で最も多かったのは「自分を守り、守られる権利」でした。(図は P. 25 図 27 を参照)

図 27 Q4-2 7つの子どもの権利のうち、守られていないと思うものはありますか。あれば最大3つまで選び、守られていないと思う順にその番号と理由を書いてください。(一番目)【子ども：年齢別】



【選んだ理由 (抜粋)】

「安心して生きる権利」

- ・交通道路での事故、かじ、さつじんなどが少ないけれどおきている。(11歳)
- ・まだ差別をしている人がいるから。(11歳)
- ・いじめはいまでもあることだし、障がいを持っているだけでからかわれたり、差別をうけたりすることがあるから、守られていないと思う。(14歳)
- ・親からの虐待や、友達からのいじめなどがまだあるから。(14歳)

「ありのままの自分でいる権利」

- ・ホッとできる場所が少ない。(11歳)
- ・心から落ちつける場所があまりないと思うから。(14歳)
- ・この権利が守られていれば、いじめなどは起こらないと思うからです。(15歳)
- ・自分ではありのままに生きているつもりでも、実は親や友達からこうしろと言われて自分が生きたいように生きられていないと思った。(16歳)

「自分を守り、守られる権利」

- ・いじめや虐待などで、自殺や幼くして亡くなってしまっている子供がいることをニュースで見かけることが多々あるから。(11歳)
- ・いじめや虐待、体罰は増える一方であるし、相談できる場も少なくなっている気がするから。(12歳)
- ・いじめや虐待されている人にとってとても良い逃げ場所ですが、相談する事によってエスカレートする可能性もあるため中々相談する勇気がある人は少ないと思います。(15歳)
- ・相談をしようにも、なかなか相談ができない人がいたり、誰にも話さずに一人で苦しむ人が

いるから。(15歳)

- ・まだいまだにいじめられてる子どもがいて、すくなくはなってきたけど自殺している人もいるから。(17歳)

「自分を豊かにし、力づけられる権利」

- ・先輩に成長や自信をけなされるため。(14歳)
- ・学校生活で、「励まされる」事や、「力づけられる」事が少ないように感じたから。また、川崎市を含む日本の子どもたちの自己肯定力は低いと言われているから。(この権利が守られているのなら、必然的に子どもたちの自己肯定力も高くなっていると思う。)(15歳)
- ・ルールが厳しすぎる(例えば公園)。(16歳)

「自分で決める権利」

- ・最近はお自分のやりたいことを自分で決めないで他の人の意見に合わせる人が多い。(13歳)
- ・必ず大学に進学するという雰囲気があったので、自分が本当に将来したいことがなかなか親などに言い出せないような環境になっているから。(14歳)
- ・いろいろな制限があるので、自分で決める権利があまりないと思うが、大人に守られている存在なので仕方がないとも思ってしまう。(17歳)

「参加する権利」

- ・自分の意見を言うのが苦手で発表できないから。(11歳)
- ・社会で活動し、表現する場が少ないと思ったから。(15歳)
- ・周りの意見に流されたり、いじめや差別で自己主張を防げられることがあるから。(16歳)

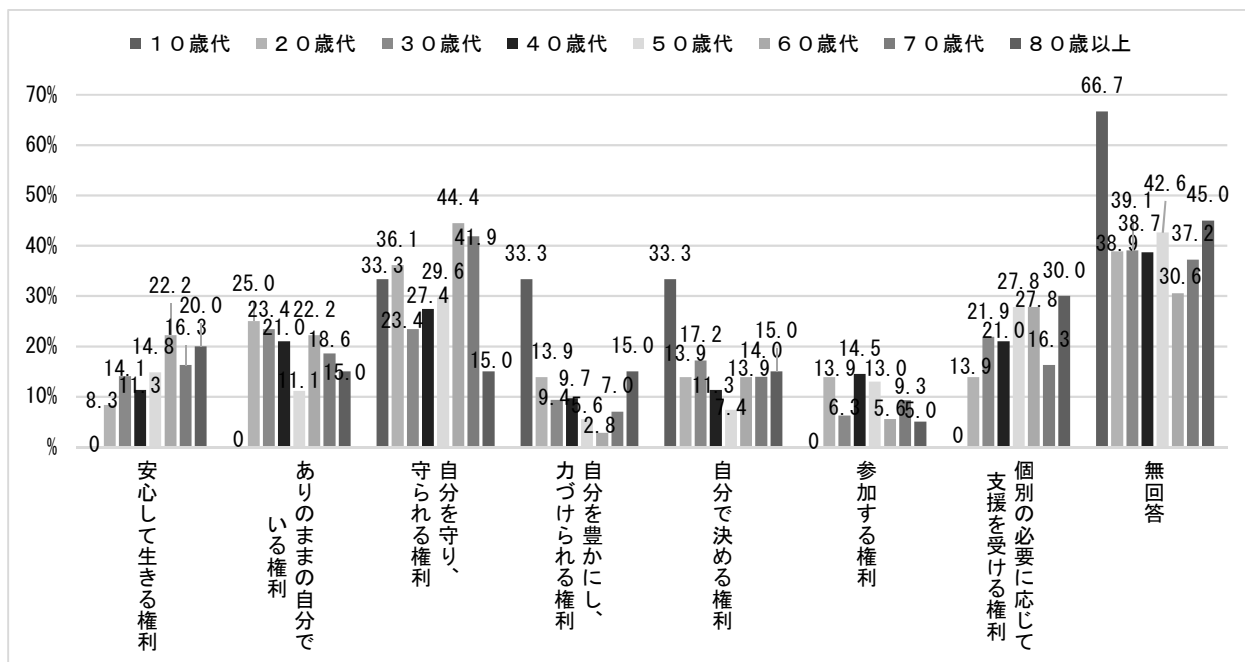
「個別の必要に応じて支援を受ける権利」

- ・社会の中でも、子どもの中でも障がい者への差別があるから。(15歳)
- ・日本では差別がないと思っている人もいるかもしれないが、障がいや国を理由にして差別している人が多いと感じるから。(16歳)
- ・これは子どもに限らず一般社会においても他の人と違うという理由で差別や迫害を受ける人は多いと思うため。(16歳)

【おとな：年代別】

おとなに対し、7つの子どもの権利のうち、守られていないと思うものを守られていないと思う順に3つ選んでもらったところ、ほとんどの世代において最も回答の割合が高かったのは「自分を守り、守られる権利」で、80歳代のみ「個別の必要に応じて支援を受ける権利」でした。

図 28 Q4-2 7つの子どもの権利のうち、守られていないと思うものはありますか。あれば最大3つまで選び、守られていないと思う順にその番号と理由を書いてください。(全体)【おとな：年齢別】



【選んだ理由（抜粋）】

「安心して生きる権利」

- ・新型コロナウイルスの流行により、子どもたちの間にも不安な雰囲気が蔓延してしまっているように感じます。(30歳代)
- ・虐待のニュースを見たり、世話で人を傷つけても罪悪感もなく自己中心的な子ども達を見ると愛情を注がれなかったんだと感じるから。(50歳代)

「ありのままの自分でいる権利」

- ・場合によって全てあてはまる子どももいると思いますが、全体的に昔に比べ、ストレスが子どもにかかりすぎて自分を表現出来ない子どもが多いように感じます。(40歳代)
- ・人と違うことは個性であるという認識がまだ理解されていない。又、人種的な事でも差別、いじめがある。(60歳代)

「自分を守り、守られる権利」

- ・川崎市だけではないが、いじめ、虐待、体罰はなくなる状況だから。(30 歳代)
- ・最悪になってから発覚する。(40 歳代)
- ・事件が多すぎる感がある、相談することで危険になっていることも。(50 歳代)
- ・いじめ、SNSなどによってのいじめは、より陰湿化しているのでは。(60 歳代)
- ・自分を「守ってもらえる」のだという安心感は何よりも必要。(70 歳代)

「自分を豊かにし、力づけられる権利」

- ・公園や学校など「〇〇してはいけない」が先立ち、子どもが自由にチャレジする場が少ないと思う。(30 歳代)
- ・表現力を養う場や、力づけてもらえる所が少ない。(70 歳代)

「自分で決める権利」

- ・大人の言いなりになってしまっている子どもも多いと思うから。(20 歳代)
- ・子どもによっては助けや情報をどうやって得られるかわからないと思うから。(40 歳代)

「参加する権利」

- ・社会の一員であることを認識することが将来につながるから。(20 歳代)
- ・地域の活動に積極的に参加し、友達をたくさん作って欲しい。(40 歳代)
- ・子ども達の意見を尊重する事が必要。(50 歳代)

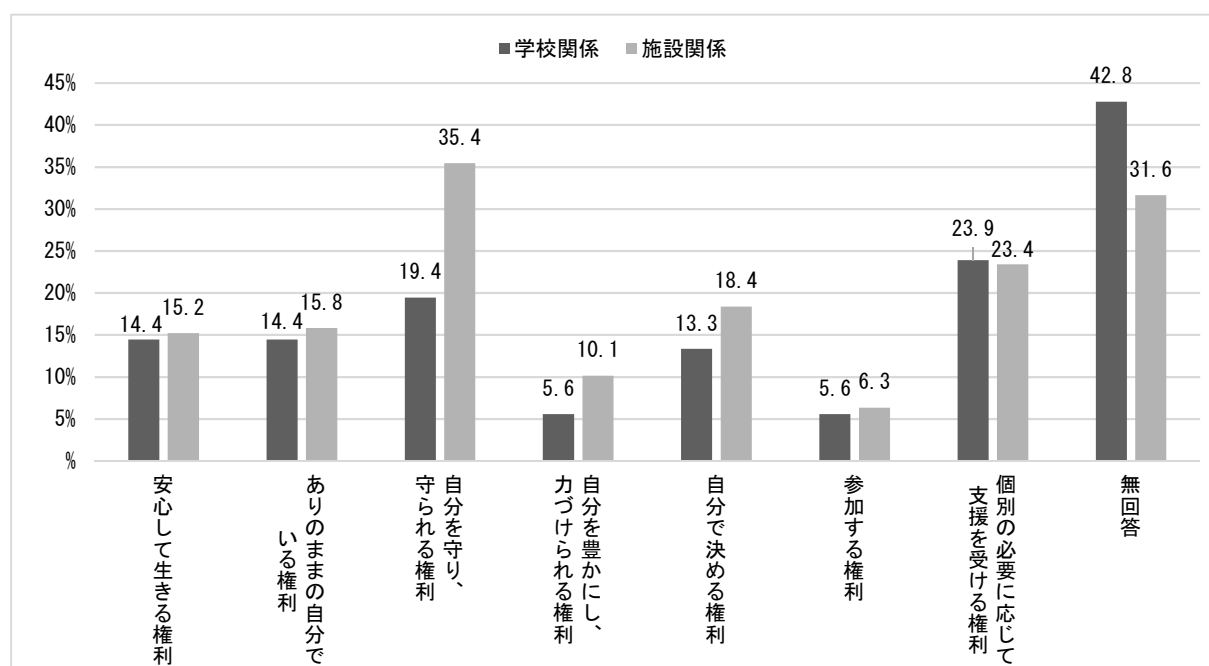
「個別の必要に応じて支援を受ける権利」

- ・基本的人権に関わるものだと思います。どんなケースにおいても、子どもの権利が守られるように国をはじめ自治体が尽力すべきと考えます。(30 歳代)
- ・障がいがあって生きていくことで支援があると助かるしありがたいので。(50 歳代)
- ・個別に支援を受けることはとても大切。(80 歳以上)

【職員：施設別】

職員に対し、7つの子どもの権利のうち、守られていないと思うものを守られていないと思う順に3つ選んでもらったところ、一番多く選ばれた権利は、学校関係は「個別の必要に応じて支援を受ける権利」で、施設関係は「自分を守り、守られる権利」でした。二番目に多く選ばれた権利は、学校関係は「自分を守り、守られる権利」で、施設関係は「個別の必要に応じて支援を受ける権利」でした。

図 29 Q4-2 7つの子どもの権利のうち、守られていないと思うものはありますか。あれば最大3つまで選び、守られていないと思う順にその番号と考えられる理由や問題点を書いてください。(全体)【職員：施設別】



【選んだ理由（抜粋）】

「安心して生きる権利」

- ・安心して暮らした経験が少ないために、自己決定をする自信がなくなってしまったような子どもを見かける。(学校関係)
- ・子どもの安全、安心は大人の生活によって左右されてしまう。また、多くの子どもは、この権利を有することを知らないと思う。(施設関係)

「ありのままの自分である権利」

- ・他の人とちがいや個性があることがあまり認められていない。(学校関係)
- ・今の日本の教育の場、環境において、個を大切にすることはできていない。というより、子どもに対しての大人の数が難しいこともあると思う。幼児に対してもっと人をつけるべき。(施設関係)

「自分を守り、守られる権利」

- ・まだまだいじめはなくなる。減ってきてはいるが、もっと大人が子どもを守っていく必要がある。(学校関係)
- ・まだまだ助けの求め方がわからない子どもが多く感じる。(学校関係)
- ・守られていないと言うか、いじめられる側ががまんをしてしまうと気付くのが遅れてしまうので、まわりの人の気付きが大切になってくる。(施設関係)

「自分を豊かにし、力づけられる権利」

- ・遊びなどで「うるさいから」「あぶないから」で制限されている。すべておとなの都合である。(学校関係)
- ・守られていない訳ではないが、どこまで子どもの意向に沿えているか疑問ある。(施設関係)

「自分で決める権利」

- ・おとながいつのまにか子どもに対して、選択肢を与えることが多い。(学校関係)
- ・日本では、まだ小さなころから自分で物事を決める権利が学ばれておらず、学んでいない子どもに決めさせるのは困難であるため、おとながその機会をうばってしまっているように感じる。(施設関係)

「参加する権利」

- ・社会で活動する場がまだ少ないと感じる。(施設関係)
- ・子どもの発言の場が限られているように感じるから。(施設関係)

「個別の必要に応じて支援を受ける権利」

- ・以前に比べると社会は変わってきているとは思いますがまだまだ国の違いや障がい差で差別されていることは多く教員や大人が進んで考えを伝え行動していき子どもに伝えていく必要がある。(学校関係)
- ・差別は根強く、生きづらさがあると思う。支援者の専門性も足りないと思う。(施設関係)